

COOP-JOSO News Letter

【ものづくり、人づくり、地域づくり】 震災・原発事故から1年

【4/11 東海第2原発再稼働中止と廃炉の要請署名提出（第三次・最終）】

署名総数17万1,916筆

県知事、三たび出席せず

県民の声を聞こうとせず、逃げまわる県知事の姿勢は絶対に許さない！



県民が暮らしを無にしながら署名に走っている姿、お考えください。

いま若い皆さんがおっしゃいました。これからの未来を私たち県民自身が創らなくてどうするのですか。このつらい思いをさせておく事体、県政の本当にやるせないほど悲しい現状です。

次の懇談のときにはぜひ「止めます。廃炉にします」その言葉を知事からいただきたいと思います。（常総生協 村井理事長）

常総生協組合員・生産者、署名活動がんばりました！
目標の1万筆を越え、1万1,153筆を提出

この商品案内・注文書は5月2回です。

ゴールデン・ウィーク明けのお届けです。



5月1回と2回を 事前同時回収といたします。

ご協力をよろしく申し上げます。

2012年4月11日

橋本昌茨城県知事に問う

私たちは、東海第2原発の再稼働中止と廃炉を求める署名をこれまで2度にわたって県に提出してきました。その際に知事の出席を強く要請してきました。しかしその要請はかなわず2度とも知事は出席しませんでした。今回3度目の、最後の署名提出行動にはなんととも知事の出席をと、早くから原子力安全対策課、そして秘書課に申し入れをしてきました。

しかし今回も知事は出席を拒みました。

福島原発事故は、過酷事故は起こさない、放射能を大量に環境に放出することは絶対にない、という安全神話を打ち砕いてしまいました。そしていまや放出された放射能が大地を、海洋を、大気を汚染し、3.11前には返ることのできない環境を作り出してしまいました。外部被曝ばかりでなく、飲み水や食べ物を通して、また呼吸から放射性物質を体内に取り込んででもたらされる内部被曝に脅えなければならない環境となってしまいました。福島の人たちの中には故郷を追われ、家族もバラバラになり、原発難民と化した人たちも出てきてしまいました。こうした3.11がもたらした影響を踏まえて、もう二度とこのような事故を起こしてはならない、このような理不尽を生み出す原発はもう止めなければならぬと悟り、そのことを多くの人たちと共有してその思いを伝えようとする私たちの行為を何故知事は拒むのでしょうか。県の行政指導者として市民の生の声を聞くことを何故しないのでしょうか。理由があったら明確な回答を下さい。

また、東海第2原発の再稼働には知事の同意も必要とされています。知事はどう考えているのですか。過酷事故が起これば、茨城県域ばかりではなく直接的な影響を被る近隣の県や飲料水や食べ物を通して全国的に影響を与えるかも知れない事態に対して、どうすべきと考えるのですか。これから先の日本社会はどうあるべきと考えているのですか。知事の哲学を聞かせて下さい。自分のこれまでの生き方と人生観、世界観にのっとなって答えて下さい。私たちの真剣さに真剣に答えて下さい。

以上、回答を求めます。

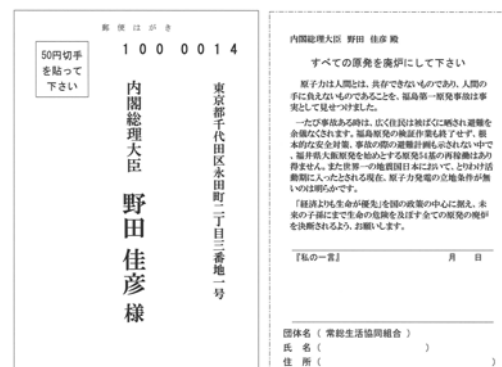
東海第2原発再稼働中止・廃炉署名簿提出共同行動

【原発再稼働をなし崩しにすすめる4閣僚へハガキを】

被ばくさせられた市民として、なし崩しの政治判断による原発再稼働は、絶対に許さない！

●政府は、福井県大飯原発の再稼働に向け、福島第一原発事故の検証、根本的な安全対策の策定、事故が起きた際の避難計画の策定などとは関わりなく、なし崩しの政治判断で押し進めようとしています。

●原発再稼働を密室で政治判断する4大臣(野田総理大臣、枝野経済産業大臣、藤村内閣官房長官、細野原担当大臣)に絶対に勝手な事はさせないよう、みんなでハガキを出しましょう。ぜひ組合員以外の周りの人にも呼びかけをお願いします。



【4/11 東海第2原発再稼働中止と廃炉の要請署名提出（第三次・最終）】

県民の声を聞こうとしない橋本知事！

県職員も二言目には「国が…」、地方自治の主体性うかがえず



●三たび、知事は出てこず

昨年7月、東海村の相沢村議の呼びかけで署名実行委員会によって始まった「東海第2原発再稼働中止・廃炉要請署名」。

11/8、2/10の2回で、すでに10万筆を届けており、今回最終集約分を提出。署名の最終総数は17万1,916筆、うち常総生協組合員ががんばって集めた署名が1万1,153通。



過去2回、知事は欠席。最後の署名提出には、必ず知事が出席するよう、申し入れたにも関わらず、三たび知事は「日程が合わない」と出てこず。県内の市民団体など、出席者からは、「事前に分ってるはずだろう」「何をやってるんだ」の声が上がり、騒然とした雰囲気、署名の提出、意見交換が行われました。

●県知事、県職員は県民の安全と健康をまっ先に考える立場でしょ。「国が何も言わないから…」それが県民に対しての言葉か！

（龍ヶ崎市 橋本さん）

県庁にお勤めの職員の方ですから、当然、地方自治法というものはご存じですね。第2条には地方公共団体が法人であるということ、その事務、事業について書いてあります。真っ先にあげているのは、

「地方公共の秩序を維持し、住民および滞在者の安全、健康および福祉を保持すること」。この法律は地方自治法です。地方統制法ではありません。地方自治というのは、地方のことは地方で決めろ、それで真っ先に地方公共団体がやらないといけない仕事は住民の安全、健康および福祉を保持することになっているんです。

「国からの再稼働の要請がどうだ」とかいうそんな話じゃないでしょう。まず、県庁にお勤めの皆さんは、地方自治の本旨に基づいて自らの立場でこの東海第2原発が安全かどうかを考えるべき立場にある方です。

知事のお話を伺っていると「国が何にも言っていない」。関係ないんだ、そんなことは。僕らは県民ですよ。県民に対して言うべきことか、それは。地方公共団体の長として、あなた方はその職員として、県民の安全、健康を真っ先に考える立場ですよ。何を考えているんですか。

それからもう一つだけついでに言わせていただきますけれども、県が発行している広報誌「ひばり」に稀勢の里関が知事を表敬訪問の記事。会っちゃいけないと言っているわけではないんです。結構なことだと思います。だけど稀勢の里関も県民なら、我々も県民なんですよ。ずっと前から知事にお会いしたいということで、相沢代表はじめずっと折衝してきたはずですよ。会う時間がなかったわけではないでしょう。どういうことなんだ。我々、ここに来ているだけでも7,80人いるわけですよ。17万2千筆の署名があるんですよ。それがお願いに上がって、ずっと時間をとってなんとかお会いしたい。今日はたまたま知事会かもしれないけど、もつと時間あったでしょう、どこかで。どういうことだ、これは。はっきり答えなさい。



●東海第2原発近隣のお母さん達が涙ながらに県職員に訴え

（ひたちなか市から）

私は4歳になる娘がいます。子供を外で遊ばせたいと思っても、いま遊ばせられません。安心して外で花摘みもさせられません。子供たちの環境を返してください。そのために決断をお願いします。



（ひたちなか市から）

震災以来、自分の無関心に反省して、少しでも声を上げることに意義があるという事を皆さんに教えていただいて活動を一緒にさせていただいています。うちの親世代は戦後、貧しい暮らしを自分の子供にはさせたくないと言って、一生懸命日本を豊かにしてくれて、私達を豊かに育てて下さいました。それに感謝しています。でも少し行き過ぎたような気がします。

子供たちは土が大好きです。人間は土の上で生きていけます。その土を汚してしまう。病院に行かなくても被ばくしてしまう環境で子供を育ててはいけません。それが今の現実です。それをどうか反省できる大人になってください。

県には、国から私達を守る砦になっていただき

たいのです。あなた方が失う利権があるかもしれないですが、そのときは私達が守ってくださった方々に感謝と信頼と心からのお礼と一緒に生きて行きたいと思えます。そういう町が増えれば、日本はまだ大丈夫だと思うので、どうか子供たちの未来と自分たちの未来を、自分たちで作るという気持ちに気付いて反省していただきたい、それが大人が子供に見せる責任だと本当に思っています。

小さなことで良いので声を上げることがすごく大事なことを震災で学びました。先に活動をされている大人の方に感謝しています。諦めずにこれからも続けていきたいと思えます。

（東海村から）

国からの判断を待たずに、原発立地の県として判断をお願いします。

これから生まれてくる子供たちのためにもぜひ、本当に署名の重みを感じて、ぜひ知事よろしくお伝えください。地道に私達も活動をしていきます。

6月の燃料装荷、原電から予定が発表されています。私達は再稼働中止を求めています。よろしくお願いたします。

県民との対話の席に県知事が出てくるまであきらめない！知事宛てのハガキをみんなで出そう！

●県知事宛てに、この間の対話を拒む姿勢への抗議と対話集会要請のハガキをみんなで出しましょう。

●別紙でハガキ用紙を準備しました。お手数ですが、外枠線に沿って切り取り、50円切手を貼って投函して下さい。『私の一言』もぜひ添えて下さい。

●お友達、学校やサークル仲間などにもお声掛けいただける方は供給担当までお申し出下さい。別途、用紙をお渡します。

※東海第2原発廃炉に向けて、日本原子力発電(株)社長宛てのハガキの提出もよろしくお願いいたします。

